



ニュースレター

第59号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F
株式会社ワールドプランニング内
NPO法人 日本リハビリテーション看護学会
事務センター
電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757
E-mail jrna@worldpl.jp



愛媛県 大島の亀老山（きろうさん）展望台より撮影「来島海峡大橋」



リハビリテーション看護について再考しませんか

理事長 栗生田 友子

埼玉医科大学 保健医療学部

リハビリテーション看護は、今、さまざまな社会の変化を受けて変わろうとしています、1つは、1990年代から徐々に起こってきた看護における「専門性」や「実践能力」といった視座によるものです。でも、リハビリテーション看護の専門性については、「リハは看護そのもの」と考えられ、専門性を問われながらも、「ジェネラリスト」として働く人生経験の広い看護や介護の力も、臨床ではのびのびと発揮され、魅力的な実践活動が躍動していると私には思えます。

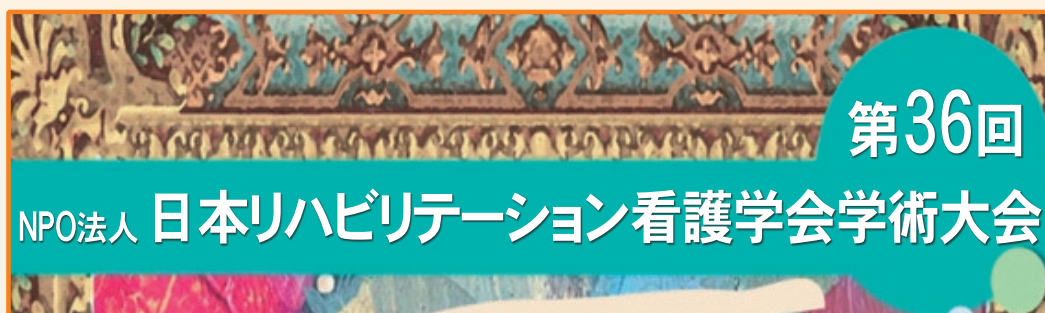
さらに、リハビリテーション看護は、リハビリテーション医療の中で、病期を問わず、急性期から回復期、生活期、終末期へとつながり、われわれが生きる限り、どの時期にあっても「リハビリテーション」という考え方は必要であると認識されています。この中でも、とくに急性期・終末期リハビリテーションは、近年実践知が積み上げられ、回復期リハビリテーションが効果的に進むためにどれだけ急性期における身体づくりが大

切か、そして疾病や治療に動向を受けて、人がどのように死までの時を過ごすのかということが重要視され、そこに生活の質を高めたいとするリハビリテーションのケアが息づいています。

そしてもう一つ、「リハビリテーション」が、ことに心疾患、腎疾患、がん等の慢性・長期的な疾患の領域での活動へも広がってきているという点です。本学会では、この分野の実践者が少ない傾向がありますが、回復期リハビリテーション病棟でも、在宅ケアの場でもこの実践力を培って、ケアにあたらなければならない現状にあります。

このような時代の流れの中で、リハビリテーション看護を標榜する場で何が必要なのか、今どんな実践力を培っていくことが患者のニーズに応える看護の提供につながるのか——。「リハ大好き」と言っていた先人たちのあとを追いながら、移行期の風をひたすらに感じています。

一緒にリハビリテーション看護を再考しませんか。



学術大会長 東邦大学看護学部 原 三紀子

テーマ：ナラティブから始めるリハビリテーション看護

～心とからだの声を聴く～

会 期：2024年11月2日（土）ライブ配信

11月3日（日）ライブ配信

※ 2024年12月18日（水）まで
：オンデマンド配信（予定）

方 法：Web開催（オンライン）

いよいよ今年度のNOP 法人日本リハビリテーション看護学会第36回学術大会が近づいていて参りました。本学術大会では、「ナラティブ」に焦点を当て、参加者が「語ること」や「聴くこと」の意味について考える機会を提供したいと思います。当事者、ご家族、医療者など、異なる立場の人々のナラティブを通して、対象理解を深める重要性を共有し、これらが未来のリハビリテーション看護の創造にどう寄与するかを探りたいと思います。参加者の皆様と共に、有意義な討議や交流を通して、リハビリテーション看護の向上に寄与できることを期待しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



東邦大学看護学部正面玄関

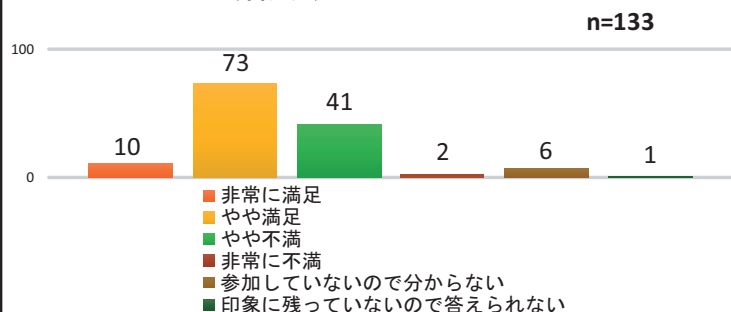


企画委員を代表して ナイチンゲールホールにてー



調査委員会による学会活動アンケートのご報告 (抜粋)

研修会について

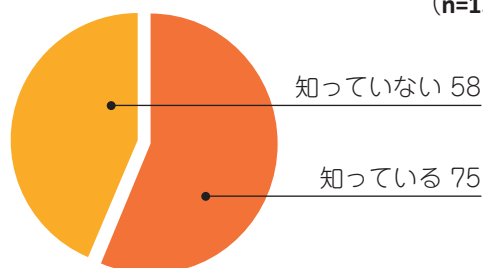


本年の 4 月。多くの会員の皆様に、学会活動の満足度とニーズを明らかにするアンケートのご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

アンケートの一部を報告致します（内容は、第 36 回の学術大会にてご報告する予定です）。

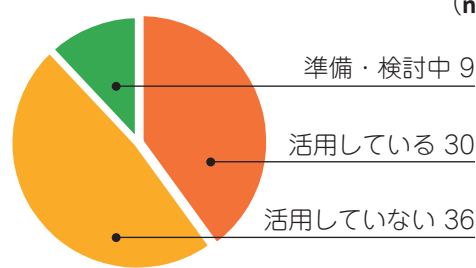
リハビリテーション看護 クリニカルラダーを知っていますか？

(n=133)



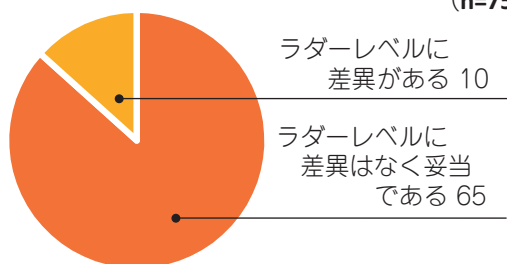
リハビリテーション看護 クリニカルラダーを活用していますか？

(n=75)



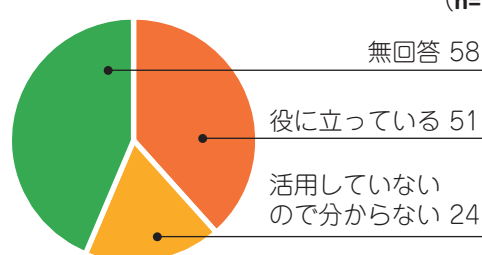
リハビリテーション看護クリニカルラダーと 貴施設のクリニカルラダーの整合性は？

(n=75)



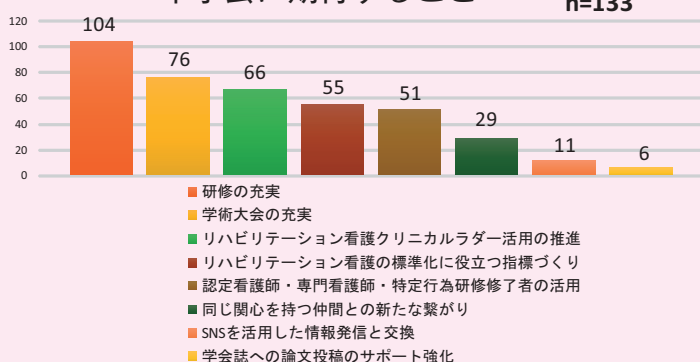
リハビリテーション看護クリニカルラダーは 実践能力向上や研修参加に役立っているか？

(n=75)



本学会に期待すること

n=133



本アンケートは会員 133 名 (22.2%) から回答を得ることができました。もっとも多かった意見として研修会の要望（クリニカルラダーに応じた実践能力を伸ばす研修など）があり、この内容は、本学会が推進している活動（研修会運営・学術大会の運営・研究活動支援）と一致していました。今後、さらに魅力あるリハ看護の推進につながるような研修を企画する所存です。今後の研修に関するご意見などお寄せください。

施設紹介

大阪北リハビリテーション病院

看護部長 遠藤瑞穂

大阪府済生会・大阪北リハビリテーション病院は、大阪府北区に2023年4月に新しく開院しました。立地はJR大阪駅から約1キロ、JR福島駅からは500mと、アクセスの良い場所となります。近隣には、日本初のクラシック専用ホールであるザ・シンフォニーホールがあります。



建物は地上10階建、病院のほか、済生会大阪乳児院、特別養護老人ホーム喜久寿苑、訪問看護ステーション、中津看護専門学校などが併設された、医療福祉総合施設となっています。3階から5階が病院で、3階は理学療法室や外来部門、4階、5階が病棟となっています。病床数は96床(1病棟48床)で回復期リハビリテーション入院料3を取得しています。

当院は各フロアに機能訓練室を設けており、3階はドライブシュミレーター等機器類を配置した理学療法室と4室の言語聴覚室、4階は作業療法室とリハビリング、5階もリハビリングを設け、病棟内で機能訓練ができるスペースを確保しました。

病院の理念は、「済生の心でリハビリテーションを通じて人々を幸せにします『自分らしく自分の場所で生活するために』」です。

看護部の理念は「わたしたちは生活基盤である『寝る・食べる・出す』を整え、ありのままを受け止め、共に考え、共に行動し、その人らしい生活を目指します。」です。『寝る』の可視化のために、開設時に全病床に眠りスキャンを導入しました。

新規開設のため、物など何もない状態からスタートしました。物が入り、職員が入り、共に学び、環境を整備し、2023年5月に保険診療を開始しました。人員確保の関係で、1病棟からスタートし、11月に2病棟目を開設し現在病棟稼働は85%を越えてきました。

初年度は人員確保、患者受け入れ体制の構築、今年度は、業務マニュアルの整備、人材育成体制整備など、一つずつ職員みんなで作っています。

開設以来、病院内外の多くの方々のご支援、ご指導を賜りました。

心より御礼申し上げます。焦らず、さがらず、歩みを進めてまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。



研修会のご案内

● 本学会では、「専門性」「実践力」に着目し、異なる企画プロジェクトを設けています。

①学会の研修委員会からの企画(研修会とe-ラーニング等、6企画)

②学術大会での講演やシンポジウム、交流集会等の企画
11月2～3日

③今年度から参画を開始する「リハビリテーション・ケア合同研究大会：10月3～4日」

④回復期リハビリテーション病棟協会との合同研修会
(web参加)(2025年1月11日)です。

2024年度日本リハビリテーション看護学会・回復期リハビリテーション病棟協会合同研修会

開催日時：2025年1月11日(土) 13:30～17:00

(テーマ：なるほど、そうだったのか？食べるリハビリテーション)

編集後記

このニュースレターが届くころは、秋の気配になっていると思います。ポストコロナ時代となり、医療現場も様々なことが再開や拡大しています。数年ぶりの対面会議でWeb会議とはまた違う良さを実感しました。ノンバーバルな表現が読み取れる、双方向で理解しようという気持ちが感じられる、自分の参加者意識が高まることなどです。実感といえば、皆さんの夏の思い出はいかがでしたか？私も旅の楽しさを実感した夏になりました。

広報・会員拡大委員：千葉リハビリテーションセンター 飯田直子

